

K F A ビーチサッカー競技規則

1 競技の目的

本競技は地球環境保護への意識を持ち、並びにレクリエーションとチームワーク・友情、そして健全な競争に基づいて実施される。ゆえにフェアプレイ精神は、最も尊重されなければならない。

2 競技エリア

フィールド（ピッチ）とフリーゾーンからなる。

(1) フィールドのサイズ

U-12・U-15 : L 30 m × W 20 m

一般の部 : L 37 m × 28 m

全てのカテゴリーで周囲には、最低 1.5 m のフリーゾーンを設ける。

(2) ペナルティーエリア

- ◆ 各コーナーから中央に向かってそれぞれ 7 m（一般の部：9 m）のタッチライン上に旗を置く。ゴールラインからこの旗までのコート内全領域がペナルティーエリアとなる。ただし、2本の旗を結ぶペナルティーエリアラインは引かない。
- ◆ ペナルティーエリア内では、ゴールキーパーはボールを手で処理できる。
- ◆ ペナルティーキックは、このペナルティーエリアのライン上で行う。

(3) コーナーとハーフウェイ

各コーナーとハーフウェイのフリーゾーンには旗を置く。ハーフウェイラインは引かない。

(4) ゴールのサイズ

U-12・U-15 : H 2 m × W 3 m

一般の部 : H 2 m × W 5 m

3 ボール

ボールは、皮または人工皮革製の球とし、U-12 は 4 号・その他のカテゴリーは 5 号球（0.4 気圧）を使用する。

4 チーム構成

試合は、ゴールキーパーを含め U-12 のみ 6 人制で行い、その他のカテゴリーは 5 人制からなる 2 つのチームが対戦する。

交替数に制限はなく、あらかじめ参加申込された選手からであれば、何度でも出場できる。

(1) 最低出場選手数

各チームは常に 3 人以上の選手がプレイしていなければならない。イエローカードあるいはレッドカードによる退場者が同時に 2 人いて、さらにカードによる退場者が出てピッチ内のプレイヤーが 3 人未満となった場合は、直ちに試合終了となり 0 対 5 の敗戦となる。但し、ペナルティーボックス内にいる選手はピッチ内のプレイヤーに数える。

(2) 最低出場可能選手数

出場可能な選手が 2 人となったチームは、0 対 5 の敗戦とする。

(3) 登録は5人 (U-12は6人) 以上10人以下とする。

5 審判

審判団は、審判とタイムキーパーからなる。なお、審判の判定に対する抗議は一切認めない。

6 ユニホームと用具

(1) ユニホーム

- ◆ 各チームのユニホームは、同一色のシャツとする。
- ◆ シャツの背中には、背番号をはっきりと見えるように付けること。

(2) 使用禁止用具

- ◆ 他の選手へのケガの原因となるようなシューズ、用具、アクセサリーの着用は禁止する。
- ◆ スパイクシューズは全面禁止とし、アップシューズ・トレーニングシューズの使用も認めない。

7 試合開始・試合時間

(1) 試合開始

- ◆ 試合直前に両チーム主将の立会いの下コイントスによって、エンドを決める。
- ◆ キックオフの際、相手チームの選手は、ボールから最低5mは離れていなければならない。

(2) 試合時間

- ◆ 試合時間は全試合前後半6分とし、ハーフタイムは3分とする。

8 勝敗決定の方法

(1) 予選リーグ

- ◆ 各チーム、組合せ表に基づきリーグ戦を行う。
- ◆ 順位決定は、勝ち3点、引き分け1点、負け0点の勝ち点によって行う。
- ◆ 勝ち点が同点の場合は、得失点が多い方を上位とする。得失点差も同等の場合は、総得点の多い方を上位とする。それでも勝敗が決しない場合は、コイントスにて勝敗を決する。

(2) 決勝トーナメント（準決勝・決勝）

- ◆ 決勝トーナメント進出チームによるトーナメントを行う。
- ◆ 試合終了時点で同点の場合は、両チーム3人によるPK戦にて勝敗を決する。

9 反則

(1) 直接フリーキック

- ◆ 下記①～⑤の反則が犯された場合、相手チームに直接フリーキックが与えられる。
 - ① 相手チームの選手を蹴ったり、足を引っ掛けたりしたとき
 - ② ボールを持っていない選手に後ろから接触したとき
 - ③ 相手チームの選手を掴んだり、押したり、妨害したとき
 - ④ 自陣ペナルティーエリア内でのキーパーを除き、ボールを故意に手や肘で扱ったとき

- ⑤ 相手チームの選手や審判、競技役員、その他の参加者などに暴力的な言動をしたとき
- ⑥ ボールがシザースキック、オーバーヘッドキックを行っている、または、行おうとしている競技者のコントロール下にあるとき、相手競技者がその競技者に触れた場合、その競技者の相手にフリーキックまたはペナルティーキックが与えられる。
- ◆ 反則を受けた選手は、自らフリーキックを行うまでは他の選手と交代できない。
- ◆ 敵陣内でフリーキックを蹴る場合、相手キーパー以外の全選手は、ボールより後ろにいないといけない。また、ボールから5m以上離れなくてはならない。
- ◆ 自陣内でフリーキックを蹴る場合、相手キーパーを除く全選手は、フリーキックが終るまで、ボールとゴールを結ぶ三角形にいてはいけない。また、ボールから5m以上離れなくてはならない。

(2) イエローカード

審判は下記の①～⑧のような場合、該当選手にイエローカードを提示し、提示された選手はその時点から2分間、出場停止とする。

- ① 故意による遅延行為
- ② 競技規則の度重なる違反
- ③ 選手交替の際、出る選手より先に入場したとき
- ④ 審判が重大な反則と認めたとき
- ⑤ 審判の判定に対して、不服を表す言動をしたとき
- ⑥ スポーツマンシップに反する行為

(3) レッドカード

審判は、下記の①～②のような場合、当該選手にレッドカードを提示し、授示された選手はその試合の残り時間及びその次の試合の出場を停止する。

- ① 相手チームの選手や審判、競技役員、その他の参加者などに暴力的な言動をしたとき
- ② 審判が重大かつ悪質な反則と認めたとき

(4) 失格

次のような場合、そのチームを失格とし、その試合を含む以降の試合出場を禁止する。それ以後の試合については、0対5の敗戦とする。

- ① 登録されていない選手が出場し、それを審判が認めたとき
- ② スタートメンバーが5人（U-12は6人）に満たないとき
- ③ 出場可能な選手が3人に満たないとき
- ④ ボール拾い（出場試合の前の試合各チーム3人）をしないとき
- ⑤ レッドカードによる退場者が同一チームから累積2人となったとき
- ⑥ その他大会実行委員会が失格と認めたとき

10 フリーキック

フリーキックは直接フリーキックとする。（キックイン及びゴールキックを除く）

(1) リスタート

キックイン、ゴールキック、コーナーキック、ペナルティーキックを含むすべてのフリーキックの場合、選手の希望により、リスタート地点の砂の位置を高くしても良い。

(2) フリーキックの成立

フリーキックあるいは試合再開のとき、蹴ったボールをキッカー以外の選手にボールが触れる前に、キッカーが再度触れたときは、相手にフリーキックが与えられる。

(3) 「かべ」の禁止

フリーキックの場合、キーパーを除き、ボールとコーナーの延長戦上に相手チームの選手は入ってはならない。

11 スローイン及びキックイン

- ◆ 選手がタッチラインより外側にボールを出したときは、ボールが出た地点から相手側チームのスローインまたはキックインで試合を再開する。
- ◆ どちらを選ぶかは自由だが、キックインを選択し、ボールを地面に置いた後は、ボールを手で触れてはならない。
- ◆ キックインのボールが誰にも触れずにゴールに入っても得点とはならない。

12 ゴールキック

- ◆ 攻撃側の選手が蹴ったボールが敵陣のゴールラインを超えてコート外に出たときは、相手側のキーパーがペナルティーエリア内から手によって試合を再開する。
- ◆ このときキーパーが投げたボールが、直接ゴールに入っても得点にならない。

13 コーナーキック

- ◆ 守備側の選手が自陣のゴールラインからコート外にボールを出したときは、相手チームにコーナーキックが与えられる。
- ◆ コーナーキックは、コーナーポストから半径40cm以内のフィールド内から蹴らなければならない。
- ◆ このとき直接ゴールに入ったときは、得点となる。

14 ペナルティーキック

- ◆ 自陣ペナルティーエリア内で反則を犯したときは、ペナルティーキックが相手チームに与えられる。
- ◆ キッカーは、ペナルティーライン（旗と旗を結ぶライン）上の任意の地点からキックすることができる。
- ◆ ペナルティーキックの場合キッカーとキーパー以外の選手はペナルティーエリアに入ってはならない。

15 その他

- ◆ インプレー中、キーパーがキャッチして再開するとき、キーパーはスローによってのみ試合を再開できるが、直接ゴールに入っても得点にならない。
- ◆ オフサイド及びロスタイムの適用はしない。
- ◆ 地球環境保護に反する行為を行った者に対しては処罰の対象とする。